

食べ物の大切さ感じる産直産地ツアー

報告

紀ノ川農協
再発見ツアー

7月1日(34名参加)

紀ノ川農協の若手生
産者さんと一緒に
とうもろこし収穫

パルコープの産直産地である“紀ノ川農協”をもっと知るため、若手生産者と交流したり、トウモロコシの収穫体験・産直一株トマトのハウス見学などで楽しみました。



「産直一株トマト」も
見ることができました

妊婦になって加入した生協。ず〜っとツアーをながめながら、みんなが学童になったらバスツアー参加しようねと…子どもたちと言いながらやっとな参加できた、子どもたちの大大大好きなとうもろこしのツアー。おしべとめしべ、ひげの数が粒の数、トマトさんとハチさんは仲良し…生産者の方にすれば言うほどでもないあたりまえのことでも、私たち親子にはおどろくことばかりでした。(住吉区 澤田さん)

岡山
モーモーツアー

7月29日～30日
(24名参加)

「牛さんどうぞ…」エサを
手から食べてくれた！
(イサミ)



牛からお乳を搾る
「搾乳機」も見学
(おかやま酪農)

「産直牛肉」の産地・
イサミ吉備高原牧場と、
「生協牛乳」の産地・お
かやま酪農業協同組合に
親子連れで訪れ、牛のエ
サやり体験など生産者と
交流しました。

小さい頃から生協の牛乳に慣れ親しんできましたが、生産地や牛を育てている現場を想像する事もなかったで、今回一つ一つの工程もみせていただき、大変勉強になりました。生命のある牛を育てるだけでなく、機械の管理や洗浄、検査など様々な道をとって手元に届くのだと考えると、安心・安全の元にはこんなにも手順を踏まなければいけないという御苦労を忘れてはいけなアと改めて思いました。

(天王寺区 O・Cさん)

夏休み子ども企画

パルコープ 7月26日(16名参加)、8月22日(21名参加)

物流センター見学ツアー

「商品の届く仕組みや、パルコープの施設を子どもたちにもっと知ってもらいたい」と今年も“物流センター見学ツアー”を開催。商品が自動で仕訳されていく様子を見学したり、自分たちで商品を発泡スチロール箱に入れる体験もありました。

いろいろなさぎょうで安全な物をおとどけてくれて、ありがとうございます。こんなにたくさんのさぎょうで、わたしたちの手にとどくことを知って、その日から、せいぎょうの物がでてくるのをたのしみにするようになりました。ピーマンがにがてだったのが、せいぎょうのピーマンならおいしくかんじられるようになりました。(寝屋川市 石山さん 10歳)

ぶつりゅうセンターをたいけんしてみて、とてもたいへんなことをしているんだなと思いました。りゅうは、キズがついていないかなどをかくにんしていたからです。(寝屋川市 石山さん 8歳)



「冷蔵のトラック
の入口は建物に密
着するので外気温
に影響されません」



キウイの
袋詰め体験



NO.93

被災者に寄り添い、 絆をつなげる支援活動を

9月下旬、職員の被災地復興研修で“大槌湾の漁業・水産業の現状”を学びました。訪問先は「ど真ん中おおつち協同組合」(4者共同の事業体)で、3名の代表者の方から貴重な話をお聞きしました。

震災直後、浜の人たちは「津波は来る」と直感し高台へ逃げたそうです。しかし、亡くなられた方は、海辺の自宅や工場へ戻った方々だと。津波のあと、事業者さんはゼロからでなく、ガレキを撤去するというマイナスから再スタートで、多くの方が廃業を考えたそうです。その中、大槌町で水産業をダメにしていけないと話し合い、全国からの支援も受けて翌年2012年4月にこの協同組合を結成されたそうです。その後「鮭ソーセージ」や「海鮮パエリア」などのオリジナル商品を開発・販売を再開されておられます。しかし、大槌特産の鮭は稚魚放流ができなかった年の戻り魚が激減している上に、海水温高による主力の「イカ、秋刀魚、さば」などの原料確保が困難となり、現在は一旦共同事業は休止し、各社の事業建て直しに専念しているという厳しい現実を知ることになりました。

お話の最後に、“森は海の恋人”の取り組み(漁師さんの森づくり。森と川と海が一体のもので豊かな海を取り戻すことを目標)の壮大な運動と「ちょっとした判断で生き死にが分かれる。皆さんは、仮に仕事中であっても“自分の命を一番”にした判断で行動してください」と訴えられたことが研修生にとっても忘れられない場になりました。

(岩手県遠野市に常駐する
パルコープボランティア事務局・林さんより)



ご協力ありがとうございます

東北支援募金の状況(2017年3月21日～2017年9月20日)
20,083,049円 (この金額には2016年度繰越金・注文書での募金・店舗などに設置の募金箱・ずっとボラの会での物販などを含みます)

※OCR注文書では11月2回から、
注文番号を「1420」に変えて受付を続けます

<訂正とお詫び>
ぱるタイム141号2ページ、「九州北部災害募金」にご協力いただいた人数に間違いがありました。訂正してお詫びいたします。正しくは「16,377名」でした。

11月2回から

子ども食堂 応援募金 のとりくみをスタートします

厚生労働省は今年6月、2016年の国民生活基礎調査において前回調査より、子どもの貧困率がわずかに改善したと発表しました。しかし、中小・下請け企業の多い大阪では、貧困格差がますます広がる厳しい社会環境のなか、居場所がなくなり夕食さえ満足にとれない子どもたちが増えています。

そうした子どもたちに、居場所と温かいごはんを提供する“子ども食堂”が今、この大阪でも広がっています。パルコープでは、エリア内の子ども食堂を応援する活動を進めていきます。ぜひ、この募金にご協力ください。

集まった募金は、子ども食堂の食材費用・その他の援助費用(配達ガソリン代・高速代など)に活用いたします。

※東北応援に関する情報はホームページでも見ることができます。<http://www.palcoop.or.jp/shinsai/higasinihon/>
※パルコープの店舗一覧はこちら。<http://www.palcoop.or.jp/shopping/shop/index.html>

パル・よどがわ・なら
組合員さんの

2017年度 第1回 東北スタディ(民泊)研修

7月28日～8月1日 21名参加

今回は3生協で初めての民泊体験になりました。現地に到着して半日は被災地域を視察し、午後から、2日間お世話になる民泊先の家族とご対面。6班に分かれて、各家庭で農園のお手伝いや一緒に夕飯の支度をしたり、ゆっくりわきあいあいと過ごすことができました。

民泊先が大変楽しく印象に残ります。五十代の会社員のご主人とご夫人御両親と犬一匹で海見えるお家。
御両親は元漁業で若布昆布取りの苦労話を聞き、昭和も古くなり周りに昔話のできる人が少なくなり同じ世代の人と普通の話ができて嬉しいと喜んでいただきました。
お手伝いらしいことはできなかったのですが若手弁と大阪弁で会話がはずみ少しでも心の安らぎに役立っているなら幸いですと思いました。
(寝屋川市 小西さん)



ずっとボラの会(東北応援バス参加者の有志の会)よりお知らせ

ずっとボラの会主催

「東北の現状と課題 ～私たちにできること～」 予告

日時 12月9日(土) 14:00～16:00

会場 京橋事務所(本部) 3階

内容 被災地の現状と私たちにできること

講師 林 輝泰さん(岩手県遠野市に常駐するパルコープボランティア事務局)

※応募方法など詳しくは、次号ぱるタイム143号で案内します

<今後の販売会の予定> ぜひ、お立ち寄りください。

日程	会場
11月5日(日)10:00～15:00	守口市民まつり(京阪百貨店駐車場)
11月11日(土)10:00～15:30	都島区防災まつり(都島区社会福祉協議会)
12月3日(日)10:00～15:00	東都島店

店頭で東北グッズ販売と募金活動などを行いました。

◎つるみ店(10月1日) 売上げ57,840円と募金674円

◎大阪ちんでんバル(10月8日) 売上げ51,060円と募金1,200円

<募金方法>

OCR注文書の募金カンパ欄1416へ



1と記入すると
100円の募金になります

※インターネット注文(eフレズ)をご利用の場合は、「注文番号で注文」からご注文ください